

教育改革 としての 高大接続

20180903
大谷大学文学部
荒瀬克己

高大接続システム改革会議最終報告2016. 3. 31
「Ⅰ 検討の背景と狙い」から

○ このような大きな社会変動の中では、これからの我が国や世界でどのような産業構造が形成され、どのような社会が実現されていくか、誰も予見できない。確実に言えるのは、先行きの不透明な時代であるからこそ、多様な人々と協力しながら主体性を持って人生を切り開いていく力が重要になるということである。また、知識の量だけでなく、混とんとした状況の中に問題を発見し、答えを生み出し、新たな価値を創造していくための資質や能力が重要になるということである。

目標－現状＝課題

高大接続改革
学習指導要領改訂
大学教育改革
大学入学者選抜改革

<高校生と高校の現状をどう見るか>
個と全体

高等学校学習指導要領前文(2018年3月告示)

これからの学校には、こうした教育の目的及び目標の達成を目指しつつ、一人一人の生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる。このために必要な教育の在り方を具体化するのが、各学校において教育の内容等を組織的かつ計画的に組み立てた教育課程である。

教育課程 一人一人の生徒が、
○自分のよさや可能性を認識する
○あらゆる他者を価値のある存在として尊重する
○多様な人々と協働しながら
様々な社会的変化を乗り越える
○豊かな人生を切り拓く
○持続可能な社会の創り手となる
ことができるようにする……
総合的な教育計画

高等学校学習指導要領(2018. 3) 第1章 総則
第1款 高等学校教育の基本と教育課程の役割
(現行:教育課程編成の一般方針)

1 各学校においては、教育基本法及び学校教育法その他の法令並びにこの章以下の示すところに従い、生徒の人間として調和のとれた育成を目指し、生徒の心身の発達の段階や特性、課程や学科の特色及び学校や地域の実態

(現行:地域や学校の実態、課程や学科の特色、生徒の心身の発達の段階及び特性等)

を十分考慮して、適切な教育課程を編成するものとし、これらに掲げる目標を達成するよう教育を行うものとする。

○新学習指導要領

新教科・科目等 観点別評価
指導要録

○調査書 推薦書 志望理由書

○個別入試

○大学入学共通テスト 英語4技能

進路指導(2016年12月答申) 生徒の個人資料、進路情報、啓発的経験及び相談を通じて、

生徒が自ら、将来の進路を選択・計画し、就職又は進学をして、

更にその後の生活によりよく適応し、能力を伸長するように、

教員が組織的・継続的に指導・援助する過程。どのような人間になり、どう生きていくことが望ましいのかといった長期的展望に立った人間形成を目指す教育活動。

学校教育法

第五〇条 高等学校は、中学校における教育の基礎の上に、心身の発達及び進路に応じて、高度な普通教育及び専門教育を施すことを目的とする。

第五一条 高等学校における教育は、前条に規定する目的を実現するため、次に掲げる目標を達成するよう行われるものとする。

一 義務教育として行われる普通教育の成果を更に発展拡充させて、豊かな人間性、創造性及び健やかな身体を養い、国家及び社会の形成者として必要な資質を養うこと。

二 社会において果たさなければならない使命の自覚に基づき、個性に応じて将来の進路を決定させ、一般的な教養を高め、専門的な知識、技術及び技能を習得させること。

三 個性の確立に努めるとともに、社会について、広く深い理解と健全な批判力を養い、社会の発展に寄与する態度を養うこと。

「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」

中央教育審議会答申 2011(平成23)年1月31日

職業教育:一定又は特定の職業に従事するために必要な知識、技能、能力や態度を育てる教育

キャリア教育:一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育

キャリア:人が、生涯の中で様々な役割を果たす過程で、自らの役割の価値や自分との関係を見いだしていく連なりや積み重ね

2011(平成23)年1月中教審答申

「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」

■2016年12月答申

社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく過程を、キャリア発達としている。平成23年に中央教育審議会において取りまとめられた答申『今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について』に関する一層の理解と取組の充実が求められる。

高大接続改革のめざすもの

「観」を養い育てることにより、
考えて生きる市民に

■高校生のための学びの基礎診断

2年生 2019年度⇒2023年度

○義務教育段階の学習内容を含めた高校生に求められる基礎学力の確実な習得とそれによる高校生の学習意欲の喚起を図るため、基礎学力の定着に向けたPDCAサイクルの取組を促進し、高等学校教育の質の確保・向上に資する。

○基礎学力の定着度合いを測定する民間の試験等を文部科学省が一定の要件に適合するものとして認定する仕組み。

○基礎診断は、高等学校における多様な学習成果を測定するツールの一つ。

○生徒の基礎学力の習得を促すために、定着度合いを把握する一つの目安。カリキュラム・マネジメントに位置づけて活用することが重要。

○結果は、学習成果や課題を把握することにより、生徒自身の学習改善や教員の指導の工夫・充実、学校における成績評価の材料の一つなどに活用。

■2017大学入学共通テスト試行調査の問題

記述式(自己採点)と選択式の両方に工夫
各教科に共通するもの

○学び方が問われている。知識をもとに複数の情報を読み解き、自分で考えて構成する力が重要。

○いま生徒が解けるかどうかを評価するのではなく、解けるような力をつける高校教育が必要ととらえることが重要。

○知識とその活用法を教えた上で、生徒自身が考える場を作ることが必要。

大学入試センターHP <摘要> 2018年6月18日

現時点での検討状況。出題のねらいや実施方法等(「大学入試センター試験出題教科・科目の出題方法等」に相当するもの)は、11月実施の試行調査の分析・検証を経て、来年度初頭に公表される予定。

1. 問題作成の方向性

(1)大学入試センター試験における問題評価・改善の蓄積を生かしつつ、共通テストで問いたい力を明確にした問題作成

大学入試センター試験の問題:試験問題評価委員会を設置し、毎年度、高校教員からの外部評価を受けるとともに、関係する教育研究団体等からも意見を受け、改善を重ねている。

○さらなる良問作成に向けた工夫・改善について、例えば、国語における言語活動を意識した問題や、数学的な見方・考え方を働かせることが求められるような問題、理科において実験や観察に基づく探究活動を通じ科学的な思考力等を問うような問題、歴史的思考力を引き出すために多様な資料を活用した問題の充実などの指摘がある。

○これらは大学教育の基礎力となる知識及び技能や思考力、判断力、表現力がどの程度身に付いたかを問おうとする共通テストのねらいにも通じる。高校教育を通じて大学教育の入口段階までにどのような力を身に付けていることを求めるのかをより明確にしながら問題を作成し、実施していく。

(2) 高校教育の成果として身に付けた、大学教育の基礎力となる知識・技能や思考力、判断力、表現力を問う問題作成

○ 現在、高校教育及び大学教育において「何をどのように学び、何ができるようになるのか」を明確にしながらその充実を図るため、高校等においては、指導のねらいとする資質・能力の育成を目指した「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が、大学では、三つの方針の策定・公表とこれらの方針に基づく大学教育の質的転換が、関係者の努力と連携により着実に進められている。

いずれもカリキュラム・マネジメント

○ 高校生の学びの成果を効果的に大学に接続していくためには、高校教育と大学教育の接続段階で実施される大学入学者選抜において、どのような学習成果を問うのが重要になる。共通テストは、高校教育を通じて、大学教育の基礎力となる知識及び技能や思考力、判断力、表現力がどの程度身に付いたかを問うことがねらい。

○ このため、高等学校学習指導要領において育成を目指す資質・能力に準拠し、知識の理解の質を問う問題や、思考力、判断力、表現力を発揮して解くことが求められる問題を重視する。各教科・科目において問いたい思考力、判断力、表現力を明確に整理した上で問題を作成する。

(3) 「どのように学ぶか」を踏まえた問題の場面設定

○ 高校等における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善のメッセージ性も考慮し、授業で生徒が学習する場面や、社会生活や日常生活の中から課題を発見し解決方法を構想する場面、資料やデータ等をもとに考察する場面など、学習の過程を意識した問題の場面設定を重視する。

○ 問題の中では、教科書等で扱われていない初見の資料等が扱われることもある。問われているのはあくまで、高校等における通常の授業を通じて身に付けた知識の理解や思考力等。新たな場面でもそれらの力が発揮できるかどうか。資料等の内容自体が知識として問われるわけではない。

○ できることとできないことに分ける

○ できない理由を考える

○ できないことを忘れてしまわない

○ 優先順位をつけて

できることをする

○ 振り返る・改善する・共有する